



6月の太陽 三宅島大久保浜の日没

■「誰もがイキイキと輝ける社会を目指して」

今年度から会計監査を仰せつかりました君塚と申します。よろしくお願ひ致します。



2022年にJVCケンウッドグループを卒業し、地元の茨城県水戸市でリスタートをしました。前職を卒業した後、少しでも社会に貢献できるやりがいのある仕事はないかと探していたところ、身体や精神に障がいをもった人たちを支援する会社とご縁があり現在に至っています。

ちなみに福祉業界では“障害者”という表し方はせず、“障がい者”と表します。社会には害のある人は、存在しないということです。

会社は、2023年にスタートしたばかりですが、世間の注目もあって、多くの見学者や、体験入所者を迎えています。現在30名ほどの障がいのある方が在籍し、ここでの訓練や体験を積んで一般企業に就職できることを目指しており、すでにここを卒業し、就職（社会参加）された人もいます。

障がい者と言われる皆さんですが、パソコンを利用した事務作業やデザイン作業（名刺の作成やポスター、チラシデザイン作業）などをスムーズにこなす方も沢山いますし、デザインでは色使いや構図などに独特のセンスを発揮しています。また、お掃除の仕方や植物を育てるなどの面で秀でた才能を示してくれる人もいます。

障がい者の支援、社会参加は、皆さんもご存じのように社会的な課題であると言えます。国や県なども含めて行政機関もさまざまな取り組みで障がい者の皆さんをサポートをしています。例えば、社会に出やすいように公共交通機関の割引やタクシーチケット配布のほか、様々な支援や取り組みがあって、それらと連携して障がい者の皆さんを少しでもサポートできればと私も日夜奮闘しています。

茨城県では**障害者手帳**をお持ちになっている人が約10万人（2023年3月時点）、それ以外にも手帳はお持ちになっていないが、障がい（うつや不安障害など）を持っている方がその倍はいると言われています。それぞれ障がいの程度は違いますが一般の企業で働くことが難しい人が沢山います。私自身、一般企業に長く勤めて、与えられた目の前の仕事こなしている毎日でしたので、障がいを持っているがゆえに会社生活、社会生活に参加できない人が周りに数多くいることなど全く知りませんでした。

次頁に有名なトーマス・エジソンの母親の逸話を紹介します。1人でも自分を信じてくれる人がいれば、人には無限の可能性があるとことことを示した話です。

私もエジソンの母のように障がいを持つ皆さんを常に信じ、サポートしていきたいと考えています。

それが障がいあるなしに関わらず、誰もが輝ける社会に繋がることと信じています。【君塚 範男】

■ エジソンの母、ナンシーの逸話

7歳のエジソンが学校から帰ってくると先生がこれをお母さんに渡すようにと言って、1枚の手紙を母ナンシーに手渡しました。その手紙を読むと彼女は目から涙が溢れました。目に涙を溜めながらナンシーは大きな声で我が子に手紙を読んであげました。

「あなたの息子さんは天才です。わが校には彼を教えらる立派な先生はいないのであなたが息子さんの先生になってくれませんか？」 エジソンはその日から母との勉強が始まり、気になったことは自分で図書館にいて調べることになりました。

後に彼は偉大な発明王となり、母の死後、エジソンが遺品の整理をしてると彼女の机から小さくたたまれた手紙を見つけます。興味をもったエジソンがそれを見てみるとそこにはこう書かれていました。

「あなたの息子は精神障害者であるため、これ以上学校に行くことを許可できません。」それはエジソンが7歳のときに貰った手紙だったのです。

それを読んでエジソンはしばらく泣いたあと、日記にこのように記しました。「トーマス・アルバ・エジソンは障がい者の子供だったが素晴らしい母のおかげで世紀の発明家に転身できた。」と。



■ Online 会合報告 (2024. 5. 20)

かつて日本国内では各地で様々な蛇祭が行われていました。悪霊を払うもの、五穀豊穡を願うものなど目的はそれぞれで、藁や竹を編んで大小様々な蛇を作って木に絡めたり、神輿のように皆で背負って練り歩いたり、形も祭の様式も様々ながら地域の伝統が守られてきたようです。



近年、人手がなくなったとか、蛇を作るための藁の入手が困難になったとか、理由はいろいろあるようですが、昔の風習が廃れてしまっているところも多いのが残念です。

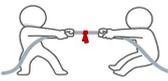
5月に栃木県間々田で国の重要無形民俗文化財に指定された「じゃがまいた」が開催されたとの報告があり、これを始めとしてネット上からも探し出したいいくつかの蛇祭の様子を話し合いました。

<http://jvc-senior.com/20240520online.pdf> を参照

■ 大相撲夏場所で「大の里優勝」

春場所では尊富士が初土俵から10場所で幕内優勝を果たしましたが、大の里は7場所で最速記録更新。とは言え、幕下付け出しからのスタートなので、これはまた別の記録ということになります。この後一気に横綱まで駆け上がってほしいところです。

■ 値上げvs減税 (どちらが強い?)



6月から介護保険料が値上げとなります。シニアクラブ会員の多くは65歳以上の「1号被保険者」となっていて、40歳から65歳未満の「2号被保険者」とは区別されます。今年は3年毎の介護保険事業計画が見直しとなる年で、2号被保険者の向う3年の保険料が決まり、1号被保険者の保険料はこれを基本に毎年改定されることとなります。

5月の初め頃、毎日のようにテレビではこの改定のニュースと共に保険料の地域差が報じられていました。

要介護者や介護施設などが多い自治体では保険料が高くなり、逆に小さな自治体で介護施設を近隣の自治体に委ねているところは安いという現象もあると。なぜ国全体で一律とならないのでしょうか。この質問をパソコンの Copilot に問うてみました。回答は ①介護需要の地域差 ②サービスコストの差 ③柔軟な運用のため と、通一遍の内容でした。

保険料が安い自治体の中には住民の健康維持増進に積極的に取り組んでいるから、という所もあり、保険料値上げや格差を愚痴るのではなく、皆がこのよう意識向上に取り組むことが大切なのでしょう。

さて、**定額減税**なるものがマスコミを賑わしています。総額3.3兆円もの減税(納税額の少ない人には一部給付をする定額減税)で、政府は景気を刺激して経済の活性化を図ろうとしています。

今年1回限りの減税と言っていますが、自治体や企業の給与担当はこの対応に追われ、事務手続きに総額700億円もの費用が掛かるといわれています。

国はこの減税の「見える化」を図り、国民にその恩恵を強くアピールしようとしているかのようです。

露骨な人気取り政策ではないかと Copilot に再び問うと「長く続いたデフレからの脱却を確固たるものにする景気刺激政策」と、国の資料から引用した回答そのものでした。

ロシアのウクライナ侵攻でエネルギー価格が上昇して実施された国の**電気・ガス価格激変緩和対策事業**は5月で終了、6月から家計の負担が増えます。今回の定額減税が本当に効果をもたらすのでしょうか。

■ 事務局から

- ・5月28日に開催予定であった「大井川川越し計画」は当日よりよっての大雨で中止となりました。今後の計画はHPにも載っています。ご参加ください。
- ・6月28日「シニアの料理教室(餃子)」
- ・7月15日「懐かしき歌の蝉時雨」

事務局 田代 周